

社会課題の解決につながる 2040年にできる仕事

ふたりはプリキュアMAX HEART

桶谷
中山
布野


着目すること

少子高齢化




理由

自力での生活が困難な高齢者が多くなり未来の労働力となる子供の数が減少することでこれからの生活が大変になる可能性が高くなるから。



2040年に団塊ジュニア世代が高齢者になる。^{※1}これによって日本の労働力が激減し日本経済が回らなくなり、子供を生子やすくなる政策などをとれなくなりさらに少子化が進んでしまう。



外国人労働者の導入

- ・日本の少子高齢化による労働者の減少はこのままでは避けて通れない状況
→外国人労働者の導入

課題：コミュニケーションの障害、事業者の外国人労働者への対応が悪い、不当に賃金が低いなどの問題があり労働者の失踪などの問題が起きる。

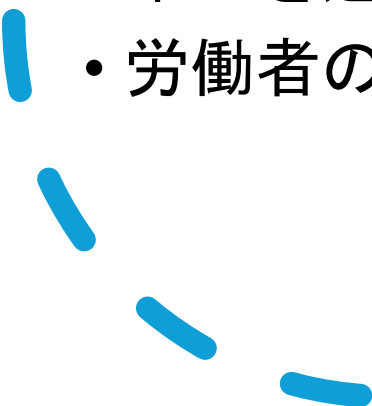
案：外国人労働者の現場とのギャップを埋めるサポートをする仕事

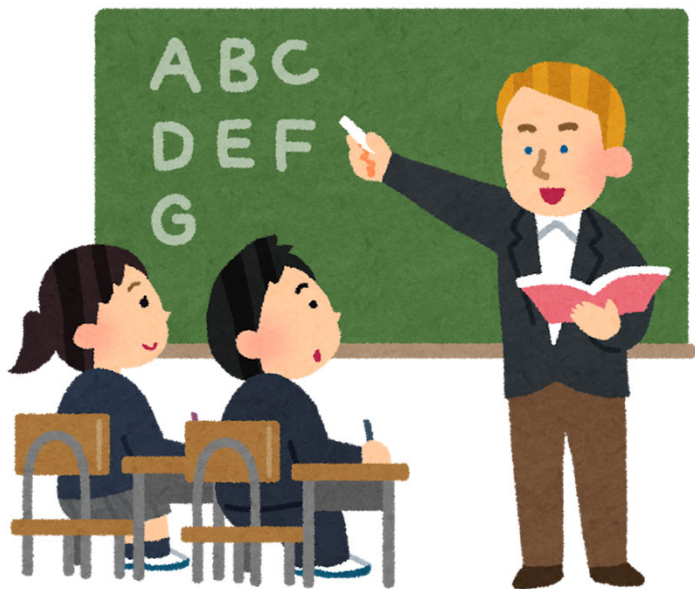
多国籍労働アドバイザー

日本とその他の国と異なる文化や仕事方法があり外国人労働者はその差に対応しきれないことが多々ある。そのような外国人労働者を減らすための仕事を導入することで日本と海外の差で仕事を辞める外国人労働者を少しでも減らし、労働力を維持・向上させることで日本経済を支えることができる。



具体的な活動内容

- 賃金の交渉のサポート
 - 日本語に不慣れな外国人労働者への職場教育を事業主に指示
 - 労働契約・職務配置・福利厚生・退職・解雇時の注意点の報告
 - 生活習慣や宗教観への理解とコミュニケーションについての事業主を通じての相談
 - 労働者の文化的背景などの事情を現場に説明して差別の防止
- etc.
- 




この仕事の課題

- ①事業者との連携が必要
- ②外国人労働者とコミュニケーションをとれる人材の育成
- ③賃金を事業者が払うことになると
公平性が損なわれる



課題を解決 するための 方策

- 
- ①雇う会社や行政が現地の状況を確認して柔軟に対応して事業者と連携を図る
 - ②この仕事につきたくなるようなPRを実施して人材を集める
 - ③雇い主は事業者ではなく行政が各事業者に派遣

まとめ 考察

- 日本の少子高齢社会からの脱却を少しでも進めるために日本経済を今よりさらに発展するのに必要な外国人労働者が安心快適に職に就き労働ができるようにする仕事が必要であり、普及させるのが大事です。しかし日本の英語力の高い人が少ないなどの課題があるので、ここ1・2年で達成できる可能性が低いです。その課題の達成するための方策（前のページ）を団塊の世代が高齢者として退職する2040年より前にできるかが今後の目標と考えます。

Fin

参考資料

外国人労働者をめぐる現状と課題

mhlw.go.jp

<https://jsite.mhlw.go.jp/.../content/contents/001031861.pdf>

※ 1 我が国の人口について | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)